

平成24年5月の地震活動及び火山活動について

○ [地震活動]

・全国の地震活動

5月20日16時20分に三陸沖でM6.5の地震が発生し、岩手県、宮城県および山形県で最大震度3を観測しました。この地震により、岩手県、宮城県で小さな津波を観測したところがありました。

5月24日00時02分に青森県東方沖でM6.1の地震が発生し、青森県東北町^{とうほくまち}で最大震度5強を観測しました。

全国で震度3以上を観測した地震の回数は24回、日本及びその周辺におけるM4.0以上の地震の回数は138回でした。

震度3以上を観測するなどの主な地震活動の概況は別紙1のとおりです。また、世界の主な地震は別紙2のとおりです。

・「平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震」の余震活動

「平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震」の余震は、次第に少なくなっているものの、最大震度4を観測した地震が1回、震度1以上を観測した地震が167回発生するなど、引き続き岩手県沖から茨城県沖の広い範囲で発生しました。5月16日に宮城県沖でM4.8(最大震度4)、5月20日に三陸沖でM6.0(最大震度3)とM6.5(最大震度3)の比較的規模の大きな余震が発生しました。

国土地理院のGNSS^{*}観測結果では、「平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震」後の余効変動が継続していますが、その変動速度は小さくなってきています。

(余震の見通しについて)

余震は次第に少なくなっており、全体的には、M7.0以上の大きな余震が発生する可能性は低くなってきましたが、今後もまれに大きな余震が発生することがあります。また、これより規模の小さな地震でも、沿岸域や陸域で発生すると、場合により最大震度5弱以上の揺れとなることがありますので、注意してください。特に、福島県から茨城県の陸域では活動が続いており、この地域の活動に引き続き注意してください。余震は、広い範囲で発生しているため、同じ規模の余震であっても、発生する場所により各地での震度は異なります。

(防災上の留意事項)

引き続き余震による強い揺れに警戒してください。また、これまでの強い揺れのために地盤がゆるんでいる地域では、降雨や余震による土砂災害の発生する危険性が高まっていますので、併せて警戒してください。なお、余震活動地域の外側でも強い揺れを伴う地震が発生しており、地震活動が高まっていると考えられますので、常日頃から地震への備えをお願いします。

また、大きな余震が発生すると津波が発生する可能性があります。海岸で強い揺れを感じた場合、また、揺れを感じなくても津波警報が発表された場合には、直ちに海岸から離れ高台等の安全な場所に避難してください。

○ [火山活動]

霧島山（新燃岳）では、今期間、噴火は発生しませんでした。国土地理院によると、新燃岳の北西数 km の地下深くのマグマだまりへの深部からのマグマの供給を示す地殻変動は2012年1月以降ほぼ停滞しています。しかし、現在でも火口やその直下には高温の溶岩が溜まっており、新燃岳直下の火山性地震も続いていることから、突発的な噴火が発生する可能性があります。また、今後、深部からのマグマ供給が再開する可能性もあり、新燃岳へ多量のマグマが上昇すれば新たな噴火の可能性もあります。新燃岳火口から概ね3 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。火口周辺警報（噴火警戒レベル3、入山規制）が継続しています。

桜島では、昭和火口で爆発的噴火を含む活発な噴火活動が継続しました。昭和火口及び南岳山頂火口から概ね2 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒が必要です。火口周辺警報（噴火警戒レベル3、入山規制）が継続しています。

三宅島では、多量の火山ガスの放出が続いています。火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）が継続しています。

硫黄島では、4月下旬から5月初めにかけて火山活動が活発化し、国土地理院の地殻変動観測でも、急速な隆起の後に沈降を観測しましたが、その後傾向は鈍化し、現在はほぼ停滞しています。火山性地震は4日以降低調になっており、火山性微動は4日以降観測されていません。海上保安庁によると、16日に第三管区海上保安本部が実施した上空からの観測では、島の北東沖で4月29日に確認された変色水は継続しているものの、当初の広がり比べて狭くなっていることが確認されました。

硫黄島の島内は全体に地温が高く、多くの噴気地帯や噴気孔があり、各所で小規模な噴火が起っています。火山活動はやや活発な状態で推移しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されるので、4月末に新たに噴気が確認された島北部や変色水がみられた北東沖、従来から小規模な噴火がみられていた島東部の海岸付近、島西部（井戸ヶ浜等）及び南東沖（翁浜沖）では噴火に対する警戒が必要です。火口周辺警報（火口周辺危険）と火山現象に関する海上警報が継続しています。

その他の火山の活動状況に特段の変化はありません。

注1：噴火警戒レベルには、レベル毎に防災機関等の行動がキーワードとして示されており、導入にあたっては、噴火警戒レベルの活用が地域防災計画等に定められることが条件となります。

注2：国土地理院のGNS S^{*}による地殻変動観測については、国土地理院ホームページの記者発表資料「平成24年5月の地殻変動について」を参照願います。

<http://www.gsi.go.jp/WNEW/PRESS-RELEASE/2012-goudou0608.html>

注3：気象庁の地震活動資料には、気象庁、防災科学技術研究所及び大学等関係機関のデータが使われています。

注4：地震活動及び火山活動の詳細については、地震・火山月報(防災編)平成24年5月号をご覧ください。

注5：平成24年6月の地震活動及び火山活動については、平成24年7月9日に発表の予定です。

※GNS S (Global Navigation Satellite Systems) とは、GPSをはじめとする衛星測位システム全般をしめす呼称です。